

「はい、ヨシノ商事でございます」

「もしもし、ヤマダ製作所の野中と申します。いつもお世話になっております。恐れ入りますが、マーケティング部長の矢野さんはいらっしゃいますか？」

「申し訳ありません。矢野はただ今、会議で席を外しております。四時頃には終わる予定となっておりますが」

「それでは、四時頃もう一度こちらからお電話いたします。矢野さんがお戻りになられましたら、来週木曜日の打ち合わせの件で電話があったとお伝え願えますか？」

「失礼ですが、お名前をもう一度お願いいたします」

「ヤマダ製作所の野中と申します」

「ヤマダ製作所の野中さんですね。私、村上と申します。矢野が戻りましたらヤマダ製作所の野中さんから、来週木曜日の打ち合わせの件でお電話があったと申し伝えます」

「よろしく願います。失礼します」

村上は電話を切ると、明日の二時迄に提出しなければならぬ中目黒店舗改装案の作成に取りかかった。しばらくすると、再びマーケティング部の電話が鳴った。

今度は向いの席に座っていた森美恵子が急いで受話器を取った。

「はい、ヨシノ商事でございます・・あ、こちらこそお世話になっております。はい、少々お待ちください」

森は電話を保留にすると、村上に取り次いだ。

「村上さん、ヤマダ製作所の野中さんという方から二番にお電話です」

「お電話代わりました。村上です」

「もしもし、先程お電話いたしましたヤマダ製作所の野中と申します。お忙しいところ度々申し訳ありません。先程の電話で、四時頃に矢野部長に電話をおかけすると申し上げましたが、急な用事が入りまして、これから長野へ行くことになったんです。戻りは早くても日曜日の夕方になる予定です。誠に申し訳ありませんが、長野から戻り次第こちらから改めてお電話させていただきます。矢野部長によりしくお伝えください」

「わかりました。申し伝えます」

「よろしく願います。失礼します」

四時になると会議が終わり、席を外していた矢野がデスクに戻った。

「部長、お疲れ様でした」

「ああ、ご苦労様。私に何か連絡は？」

「はい、一件ありました。ヤマダ製作所の野中さんから来週木曜日の打ち合わせの件で電話がありました。今日これから緊急で長野へ行くことになったので、戻り次第連絡することでした。部長によりしくお伝えくださいと言われました」

「そうか。ありがとう」

村上は伝達を終えて一息つくくと、後片づけをするために会議室へ向かった。